

エントロピー・モデルによる文化的類似度と海外子会社の立地選択の関係に関する実証分析 An Analysis of the Cultural Distance–Location Choice Association with an Entropy Model			
	東部部会	氏名	ソガ ヒロト 曾我 寛人
国際経営、異文化、シャノン・エントロピー		所属	釧路公立大学
<p>本研究では、本国と進出国の間の文化的類似度と海外子会社の立地選択の関係について、従来の分析手法ではなく、エントロピー・モデルの枠組みにより、検討を加える。Hofstede の文化的指数をデータとして使用し、自らが構築したモデルによる実証分析を行った。その結果、「男性らしさ-女性らしさ」や「長期志向-短期志向」に重みづけをした場合に予測値と実測値が接近した。</p> <p>文化的類似度と海外子会社の立地選択の関係に関する先行研究は多く見受けられる。たとえば、Li & Guisinger(1992)は、日本、西欧、北米のデータを使用して文化的類似度とサービス業の FDI の関係についてロジステック回帰分析により実証を行っている。また、Flores & Aguilera (2007) は、米国のデータを使用して文化的類似度と米国多国籍企業の立地選択について実証分析を行っている。</p> <p>他方、本研究では、先行研究において多く用いられる分析手法ではなく、エントロピー・モデルの枠組みによりモデルを構築し、そこから得た予測値と実測値を比較して、文化的類似度と海外子会社の立地選択の関係を明らかにすることを試みる。モデル化の際の基準として、①文化的類似度の高い国を優先して、②それぞれの国になるべく均等に海外子会社が行き渡ることを設定した。その上で、①の基準については重みつき平均特性値、②についてはシャノン・エントロピーにより把握することとして、海外子会社の立地選択の予測値を求めるモデルを構築した。なお、この予測値は曾我・山下(2017)(2018)と類似した形式により求めることができる。</p> <p>Hofstede の文化的指数をデータとして、このモデルによる実証分析を行った。その結果、Hofstede の文化的指数のうち、「男性らしさ-女性らしさ」や「長期志向-短期志向」に重みづけをした場合に予測値と実測値が接近した。</p>			
<p>●参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Li, J. and Guisinger, S. (1992) “The Globalization of Service Multinationals in the “Triad” Regions: Japan, Western Europe and North America”, <i>Journal of International Business</i>, vol.23, no.4, pp.675-696. ・ Flores, G. R. and Aguilera R. V. (2007) “Globalization and Location Choice: An Analysis of US Multinational Firms in 1980 and 2000”, <i>Journal of International Business Studies</i>, vol.38, no7, pp.1187-1210. ・ Hofstede, G., Hofstede, G. H. and Minkov, M.(2010) <i>Cultures and Organizations: Software of the Mind : Third Edition</i>, McGraw-Hill Education (岩井八郎、岩井紀子訳(2013)『多文化世界 違いを学び未来への道を探る』有斐閣). ・ 曾我寛人、山下洋史(2017)『北海道における資源配分のエントロピー・モデル』第 59 回日本経営システム学会全国研究発表大会、62-65 頁。 ・ 曾我寛人、山下洋史(2018)『北海道における人口・面積と地方税収のウェイトを考慮した資源配分のエントロピー・モデル』第 60 回日本経営システム学会全国研究発表大会、88-91 頁。 			